

【ご案内】会誌「情報処理」のオンライン記事について

会誌「情報処理」の特集記事は、これまで冊子、オンライン（電子図書館）の両方に掲載しておりましたが、次のとおり オンラインのみへの掲載 に変わりました。また、オンライン限定記事の掲載も始まりました。

◆開始月：2020年11月号（発行日：2020年10月15日）

◆閲覧方法：会員区分によって異なりますので以下をご確認ください。

【個人会員の皆様】

電子図書館（情報学広場：<https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/>）にログインし、該当記事のpdfをダウンロードしてください。すでに電子図書館をご利用いただいている方は今までどおりです。

電子図書館を初めて利用される方は、会員としてのユーザ登録が必要になります。

未登録の方には毎月上旬に次の件名のメールを送信しておりますので、到着次第、登録してください。

- 件名：[情報学広場:情報処理学会電子図書館] ユーザー登録のご案内
- 差出：ipsj-ixsq@nii.ac.jp

【個人会員】



電子図書館
(情報学広場)

★詳細：電子図書館利用方法（個人用）－利用までの流れ（<https://www.ipsj.or.jp/e-library/ixsq.html#anc2>）

ご案内メールをお急ぎの方や閲覧方法が分からない方は、会員サービス部門（E-mail: mem@ipsj.or.jp）に会員番号を添えてご連絡ください。

【賛助会員各位・購読員の皆様】

賛助会員・購読員の企業・大学に所属されている方に「情報処理」（冊子）を貸し出した場合、特集の閲覧方法について照会がございましたら、次の手順をお知らせください。

<手順>

- (1) 「情報処理」の特集ページ（扉または概要ページ）を開く。
- (2) 閲覧申込のURLにアクセスする（またはQRコードを読み取る）。
- (3) 必須事項を入力し送信する。
- (4) 次の件名（5月号の場合）の受信メールに従って、電子図書館から特集のpdfをダウンロードする。
 - 件名：情報処理 2022年5月号（Vol.63, No.5）「チケットコード」とご利用方法のご連絡

★注意事項

- 法人アカウントではご利用いただけません。
- 閲覧される方が電子図書館のユーザIDをお持ちでない場合は、ご自身でユーザ登録する必要があります。

本件に関する問合せ先：一般社団法人情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp



● 論文誌ジャーナル掲載論文リスト

Vol.63 No.4 (Apr. 2022)

【特集：ソフトウェア工学】

- 特集「ソフトウェア工学」の編集にあたって 吉田則裕
- コンピュータショナル・シンキングに基づく Scratch ユーザの習熟度到達予測 安東亮汰 他
- DXに向けたデジタル変革戦略の立案方法論の提案と評価 中村一仁 他
- コンテナ仮想化技術における SATD の削除に関する調査 新堂 風 他
- Automating End-to-End Web Testing via Manual Testing Hiroyuki Kirinuki 他
- ユーザによるソフトウェア価格算出を考慮した技術者単価の推定支援 角田雅照 他
- 現実的な設定におけるメソッド粒度バグ予測モデルの構築及び精度評価 萩野 翔 他
- 木編集距離に着目した類似解答ソースコード検索器における深層学習モデルの性能評価 沖野健太郎 他
- 働き方の多様性を実現するためのマイクロタスクプログラミングの実践と評価 飯村結香子 他
- 深層強化学習による営業活動意思決定支援システム 中山義人 他

【一般論文】

- Complexity of police officer patrol problem Hiroaki Tohyama 他
- 近似の積極性を動的制御可能なアーキテクチャのためのコンパイルフレームワーク* 富田和孝 他
- Cellular V2X Sidelink における高信頼・低遅延なスケジューリング法の提案と評価* 瀬川洋介 他
- ユーザ参加型 AIS によるリアルタイム風況データと航海状態の可視化* 藤本隆晟 他
- n-gram 抽出と機械学習を用いた亜種マルウェア分類手法の提案と評価 瀧口翔貴 他
- 頻度情報の付加による匿名化データの有用性向上技術の一提案* 寺田剛陽 他
- 録画による覗き見攻撃に安全な個人認証のユーザインタフェース改良による実用性向上* 江原知志 他
- 特徴の再訓練を必要としない変更可能な筆記 釜石智史 他
- 高齢者見守りのためのカウンセリングエージェントとの対話過程における Quality of life 推定システムの構築* 中川 聡 他
- キャラクターとの親密度を高める音声対話ゲームインタフェース 安斎彩季 他
- 私的観測下の繰り返し囚人のジレンマにおける協力のダイナミクス* 西野上和真 他
- Automatic Japanese Example Extraction for Flashcard-based Foreign Language Learning Arseny Tolmachev 他
- 日本語逐次音声合成における合成単位 柳田智也 他
- 自然で表現豊かな笑い声合成に向けた感情情報からの笑い声の構成要素決定法 有本泰子 他
- 機能的電気刺激を用いた中指 MP 関節の動的目標角度への制御 渡邊恭佑 他

- 待ち合わせ場所の伝達内容が理解に与える影響：Apple 社の Look Around 機能を用いた検証* 古市冨佳 他

*：推薦論文 Recommended Paper

†：テクニカルノート Technical Note



● 論文誌トランザクション掲載論文リスト

(Apr. 2022)

【論文誌 データベース Vol.15 No.2】

- Why Videos do not Guide Translations in Video-guided Machine Translation? An Empirical Evaluation of Video-guided Machine Translation Dataset Zhishen Yang 他
- Providing Interpretability of Document Classification by Deep Neural Network with Self-attention Atsuki Tamekuri 他
- Construction of Japanese Imperial Diet Database using Deep Neural Network Naoki Nonaka 他



【論文誌 デジタルプラクティス Vol.3 No.2】

- ブロックチェーンを活用した企業間ワークフロー管理システムの実行エンジン 長野裕史 他
- 大規模屋外施設における Wi-Fi パケットセンサへの影響と利活用の検証 村井大地 他
- Application of ICT to Support Sustainable Fisheries Management: Bali Sardine Fisheries, Indonesia Mohamad Natsir 他
- Quantitative Analysis of Mid-face Correction Treatment using Automated Image Analysis Tsuyoshi Moriyama 他
- 下水管スクリーニング検査のための浮流型カメラと映像処理に関するプラクティスの報告 澤野弘明 他
- 離れて暮らす親世代と子世代がゆるやかにつながるための見守りサービスの社会実装と検証 富永善観 他
- 電気自動車の仮想配電線への利活用のための実証実験およびエネルギーシステムの構築 西田義人 他
- 地域限定クーポンの利用履歴による社会関係資本の多寡推定 森木俊臣 他
- 新しいモビリティ導入に対する公共交通業界の反応 岩村龍一 他
- カメラ以外のセンサと学習用データの事前登録が不要なフィジカルサーチシステムの提案と検証 梶原 薪 他
- LSTM モデルによる金融経済レポートの指数化 山本裕樹 他





今月の会員の広場では、2月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。

巻頭コラム「忘れやすい身体」

- メタバースの標準化，必要な条件だと思います。某社のアバターサービスのようなものが本人を特徴付けるようにしないと本人との位置付けができず，セキュリティ上でも問題となると思いました。(祖父江シンイチ)
- メタバースの世界，その中のアバターを取り上げ，そこでの課題を考察してくれているのがタイミング良く面白かった。(松岡弘芝)
- 人の名前や履歴をオーバーレイで表示してほしい点や，オフラインで会うと意外と思っていたのと違うということは，私も経験がある。顔が持つ身分証明の能力や，仮想空間でのコミュニケーションが増えたときの同一性の意識など興味深い。(柴田 晃)
- Web 会議ツール上での相手の姿と，実際に対面した相手の姿に違和感を覚えた経験は私も過去にあったので共感できる内容であった。(鈴木広人)
- そもそもメタバースが，現実世界の人間関係におけるコミュニケーション上で便利さをもたらすか？ということを考えさせられた。(佐藤章博)

特別解説「国家公務員採用総合職試験における『デジタル区分』の新設について」

- 情報化が高度化し国家公務員も「デジタル区分」が新設され，現場でのITスキルが本当に必要になったことが分かる。企業に丸投げで依頼するわけではなく，仕組みを理解し，より現場に適した機器の導入が期待される。(小西敏雄)
- 総合職，一般職など国家公務員試験の種類とそれぞれの内容について調べてみる良い機会となりました。各省庁の採用実績を見て，デジタル庁に限らず，数物系は適応能力が高いはずなので，もっと多くより広く採用すべしと思いました。(片山敏之)

特集「スマートファクトリーは工場の何を変えるのか？」

「0. 編集にあたって」

■ベストエフォート型の上に築かれたネットワーク基盤において，リアルタイム性をどう実現するかが鍵になることが，各記事から読み取ることができて，良い特集だと感じました。(佐藤章博)

■筆者は「日本のものづくりの強さ」がスマートファクトリーの推進力になると示しているが，さまざまな品質不正の発覚など技術力低下が認識されて久しい日本において本当に実現可能かどうか見守っていききたい。(広野淳之)

■スマートファクトリーは働く人の生活の質まで目を向けているようですが，注目している以上，その評価とフィードバックがどのようにスマートファクトリーの在り方に反映させるのかという点も考えてみたいと思いました。(岡本克也)

■なんとなく総花的かつ技術に偏っており，導入の真の障壁である製造部門における理解の重要性と解決方法に迫れていない感があった。(上田晴康)

「1. 工場のスマート化を実現する最新のFA 技術と取り組み」

■インダストリー 4.0 が提唱されてからすでに 10 年以上が経ち，スマートファクトリーもかなり具体的にようになってきているのが理解できました。(後藤正宏)

■スマートファクトリーの定義やキー技術の動向の例を交えて体系的に説明されており，今後の展望を含め大変分かりやすい。(山下昭裕)

■「スマートファクトリー」を現場において構築していく際に必要とされる指針・考え方が示されている点がよかったです。(松浦満夫)

「2. リアルタイム AI 技術の製造業への適用」

■製造業の生産ラインの制御にはリアルタイム性が要求されますが，AI 技術もこの要求に応えられるようなリアルタイム性を実現していることを理解できました。さらに AI 技術を適用した事例も記載されていて，適用が進んでいるとの実感を得ることができました。(後藤正宏)

■時系列データのどこの変化をとらえて稼働状況を“注意”に切り替えるのか等の説明があればさらに分かりやすかったと思う。(山下昭裕)

「3. IoT プラットフォームの現状と未来」

■製造業に限定せず，他分野の基礎となる考え方と思えました(祖父江シンイチ)

■IoT プラットフォームは言葉としては知っていました

が、その中身についてはよく知りませんでした。本稿では、分かりやすくその中身について説明されており、理解することができました。日本の製造業を強くするために、IoTプラットフォームが広く普及し、成果がでることを期待します。(後藤正宏)

■製造業のDXは、収集したデータを加工し、可視化し、今まで見えていなかったデータを見える化することにより新しい価値を創造する変革であるとの説明には共感する。(山下昭裕)

「4. スマートファクトリーを支えるローカル5G」

■あまりない視点でローカル5Gの紹介がされている。(伊藤治夫)

■ローカル5Gの技術、導入のメリット、導入プロセス、コスト課題等が分かりやすくまとめられている。(山下昭裕)

■「ローカル5G」に関して導入に向けては免許制度があり免許取得が必要なことを初めて知りました。また、信頼性・安定性の高い技術的特徴による将来性にも魅力を感じました。(松浦満夫)

DP コーナー「ビッグデータのデータサイエンス」

「0. 編集にあたって」

■5件の解説が的確で解りやすかった。(伊藤治夫)

■ビッグデータ利活用推進の解説もあるとありがたかった。(伊藤治夫)

「1. [招待論文] Apache Arrow による Ruby のデータ処理対応の可能性」

■論文趣旨とは違うのだが、Arrowに関心があったので、具体的な内部の様子が分かってよかった。(上田晴康)

「2. [招待論文]大阪府の特定健康診査データの因果探索」

■ビッグデータを扱ったことのない読者にも大量データの分割処理やクレンジングなどを生き生きと体験させてくれる面白い論文です。データ解析に使う数式やソフトウェアライブラリも明示されていて、まさに有益なプラクティス的な内容になっています。(片山敏之)

「3. [招待論文] Account-Based Marketing のためのターゲット企業推薦モデルの改善」

■ソフトウェア製品として、既存企業データを分析し、成約確度の高い企業をターゲット企業として推薦するシステムの開発手法や改善について平易に解説している。(片山敏之)

「4. [招待論文] 人文・社会科学系大学におけるデータサイエンス教育」

■文系のデータサイエンス教育の事例がまだ少ないの

で手探りで授業を組み立てているのだが、このような事例を読むことで参考にもなるし、心強くも感じる。(桑木道子)

■企業でも育成には苦労しているが、大学でも同様だということが分かり、技術者全体の底上げはまだ難しい課題だと分かった。(上田晴康)

「5. [招待論文] ドローンによる作物の表現型計測と機械学習による作物バイオマス・収量の予測」

■複合データを使った予測モデルとなっている。(祖父江シンイチ)

■ドローンの機種名を曖昧にせず堂々と開示・詳述した点は、一般新聞記事とは異なりいかにも学術研究論文らしくて立派だと感じた。(大塚敬義)

■ドローンによる作物の表現型計測と機械学習による作物バイオマス・収量の予測：農業分野でのDXの活用が実用化され、社会に浸透する日を楽しみにしています。(山下昭裕)

連載「情報の授業をしよう!：高等学校(工業)でのスマートフォンを利用したデータ活用の授業」

■Connect DBとBit Arrowを活用した新しい試みを興味深く読みました。このような学習環境を工業高校だけではなく普通科高校でも興味や関心を持たせるツールとして採用してはどうかと考えます。共通テストの数学の成績が悪化したという話題を聞き、生徒に考えさせることをもっと強化しなければいけないと感じました。(小西敏雄)

■「情報」が学習科目となった。AIでもデータをどのように扱うのがAI解析の実用化のカギとなる。学生にいかに関心を持たせるか、データ処理によって何が分かるのか、目に見える形での実習を指導されているのがよく分かり、感服しました。(山下昭裕)

■これまで普通科高校の授業紹介が多かったが、工業科の高校となると授業の進展が早くスマートに進められている様子がよく分かった。最近、複数個所で聞いた話だが、工業高校出身者が地元企業に就職し、産業用ロボットのプログラムをゲーム感覚であっさり作成して苦境を救ったという事例が多いらしい。(広野淳之)

■大学初年次教育を担当する立場の者にとって、工業高校における情報を取り扱う授業(特にオープンデータの活用)が興味深い内容だった。(大塚敬義)

■生徒たちが楽しめる体験学習だなと思いました。授業

時間が限られているので体験で終わってしまうことが少なくないのだけれども、体験を元に生徒たちがテーマ設定をしてデータの利活用をする時間が取れば知識やスキルの定着ができて良いですね。(桑木道子)

■工業科の高校における情報分野周辺の一般的なカリキュラムに興味を湧いたので何かの機会にでも示してほしい。(広野淳之)

連載「先生、質問です！」

■ゲーム理論に対する良い導入になっていると感じた。今後も、質問への回答の形を借りてこのような導入を積極的にしていくのがよいと思う。(上田晴康)

教育コーナー「ぺた語義」

「オンライン授業を快適に受講するには？」

■外部モニタと広い机の必要性は在宅勤務が広がった各家庭においても話題になっていると予測できるのでタイムリーな内容だった。(広野淳之)

■学生にとって受講の快適さを左右する要因は、外付け増設モニタよりもむしろ机の広さだろうという示唆は意外性に富んでいた。(大塚敬義)

「シンポジウム『大学入学共通テスト「情報」が目指すもの』」

■大学共通テストに「情報」が入ったことで、やっと市民権を得たような気がする。「情報」は知っていると得する、から知らないと生きていけない、に推移している。コロナ対策で混乱する現代こそ「情報」は生きるツールになる必要があると思う。(小西敏雄)

■共通テストで情報を導入する際の論点が分かった。(近藤 正)

■高校「情報I」の必修化と大学入学共通テストに基礎教科として「情報」を導入する背景・経過について再確認できました。(片山敏之)

「大学入学共通テストにおける教科『情報』の導入を受けて」

■現場でプログラムを教える人員が少ないのは、当初から懸念されていたことで、実際に大学の現場でも一から始める初学者が多く苦労する場面がある。徐々にプログラムを学んだ学生が増えることで改善していくと考えるが、この変遷期は問題になるだろう。(匿名希望)

「国立大学入学者選抜制度への『情報』の追加について」

■「情報」が入試科目に採用されるのは、中学の情報教育の充実にも良い影響があるので大いに期待します。

しかし、高校で「情報」を教える態勢が整っていないことを懸念し、試験科目への採用は難しいと考えている大学もあるようです。高校の「情報」教育の取り組みをもっと大学に認知してもらいたいです。(匿名希望)

連載「ビブリオ・トーク：データサイエンス入門 教養としてのデータサイエンス」

■データサイエンスを軸に解りやすい解説がよかった(伊藤治夫)

■データサイエンス領域はその基本にしる応用にしる幅がとて広いのでこのような概観が得られる書籍の紹介はありがたいです。(岡本克也)

■本書の構成はモデルカリキュラムに完全に準拠しており、その認証制度のテキストを目的としているということで、大変参考になりました。評者の石井氏は7月号でも入門書を広い見知から紹介されていたが、次はぜひ専門レベルの本の紹介もお願いしたい。(片山敏之)

連載「5分で分かる!? 有名論文ナメ読み：Lars Ole Andersen : Program Analysis and Specialization for the C Programming Language」

■1つの章で紹介しているポイント解析が主題のプログラム自動変換よりもよく引用されているというのが興味深い。(柴田 晃)

委員会から「今年度もやります！全国大会の“デリバリー”」

■いろんな分野・立場の人がデリバリーを希望している旨が分かった。(匿名希望)

連載「IT 紀行：VR 作品の登竜門 IVRC に行ってみた！」

■IVRC でどのような発表がされているのか、IVRC を開催するメンバがどのような思いを持っているのかなど、マンガにすることで分かりやすい。(柴田 晃)

■文字中心の構成が多い学会誌の中で漫画による技術紹介は一服の清涼剤的な効果がある。紙媒体上での動画的な役割も果たしているので今後も期待しています。(広野淳之)

連載「教科『情報』の入学試験問題って？：『データの分析』分野の入試問題の分類と解法の一考察」

■問題の解説で解答に至るアプローチの記載がうまく、

実際に問題を解きながら、大変興味深く読ませていただきました。(匿名希望)

連載「<Info-WorkPlace 委員会企画>働き方を共有しよう! : CASE4: 私のオフィスはオンラインに引っ越ししました」

■リモートワークの導入が進んでおり、参考になる記事です。コロナ禍前からリモートワークについてさまざまな取り組みをされ、VPNによるリモートワーク環境導入など、工夫されていると実感しました。(匿名希望)

会議レポート「FIT2021 イベント企画『ヒトゲノム・生体情報と情報処理の課題』」会議報告

■生体情報の活用は常に個人情報との戦いだが、犯罪者逮捕のために生体情報は非常に有効な手段であることは自明である。単なる生体情報による捜査ではなく、遺伝子と犯罪との関連性という観点が興味深い内容だった。(匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■巻頭に登場してほしい人=将棋の羽生善治さん。AI将棋ではない世代の代表者としてAI前の将棋とAI後の将棋の違い、練習方法や好手奇手、AI社会全般に期待したいことと期待したくないことを聞いてみたい。羽生善治さん以外でも、AI前とAI後の両方を知っている人のAI社会全般に期待したいことと期待したくないことに興味があります。(広野淳之)

■教育関係の記事の多さに比べると、紙媒体に最新の研究動向の記事や論文も1つくらいは載せてほしい。(片山敏之)

「先生、質問です!」には以下の質問をいただきました

■一般人が利用できる5Gの現状を教えてください。(小西敏雄)

EPUBに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■情報処理の目次を毎回メールでいただきますが、電子図書館でPDFをダウンロードする一手間は面倒くさく、デジタルプラクティスコーナーのURLを直接メールで案内いただいた方が読むかとも思いました。(柴田 晃)

■オンライン化すると雑誌の印刷代が節減できます。その分、年会費を安くしていただくと助かります。(小西敏雄)

■オンライン化の方が取り扱いが楽で良い。(山下昭裕)

■図書館で冊子版を手にとった人のコメントが気になります。冊子版は薄いので、学会活動自体が薄いものと誤解されていなければよいですが。(金子雄介)

■大画面ディスプレイにPDF文書を投影すると微少な活字を拡大表示できるので大変助かっております。(大塚敬義)

■特集記事は現在、オンラインのみにて提供されていますが視認性の点で冊子版にも掲載していただけたらと思います。(松浦満夫)

【本欄担当 鶴田利郎, 竹内勇貴/会員サービス分野】

これらのコメントはWeb版会員の広場「読者からの声」<URL: <https://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html>>にも掲載しています。Web版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらでも参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後もより良い会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。



「情報処理」アンケート回答フォーム▶

<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

人材募集

(有料会告)

申込方法: 任意の用紙に件名, 申込者氏名, 勤務先, 職名, 住所, 電話番号および請求書に記載する「宛名」, Web掲載の有無などを記載し, 掲載希望原稿 ([募集職種, 募集人員, (所属), 専門分野, (担当科目), 応募資格, 着任時期, 提出書類, 応募締切, 送付先, 照会先]) を添えて下記の申込先へ, E-mail, Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので, ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関, 国公立研究機関 22,000円(税10%込)

賛助会員(企業) 33,000円(税10%込)

賛助会員以外の企業 55,000円(税10%込)

*本誌へ掲載依頼いただいた場合に限り, 追加料金4,400円(税10%込)で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門(有料会告係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし3日以内(土日祝日除く)に返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■神奈川工科大学情報学部情報メディア学科

募集人員 【教員A】教授または准教授(専任または任期制)または助教 1名

【教員B】教授または准教授(専任または任期制)または助教 1名

【教員C】准教授(専任または任期制)または助教 1名

専門分野 【教員A】人間情報科学, インタラクション, ものづくり

【教員B】ゲーム, デジタルデザイン, AI

【教員C】デジタルコンテンツ, デジタルデザイン, CG・VR/ARコンテンツ制作

業務内容 担当予定科目: ゲームグラフィクス, ゲームAI, デジタルデザイン, CGデザイン, 基礎ユニット, 専門ユニット, メディア実践講座, 卒業研究等, これら以外にも新規開設科目を担当していただくことがあります

応募資格 次の(1)から(3)の条件を満たす方

(1) 上記の専門分野に関連した技術分野の教育・研究に熱意を有すること, (2) 本学の業務に, 積極的かつ協動的に取り組むことができること

【教員A】【教員B】

(3) 博士号取得もしくは同等の業績あるいは関連分野の業務成果を有すること

【教員C】

(3) 博士号取得または3年以内の取得見込み, または修士号取得で関連分野の作品・業務の実績を有すること

着任時期 2022年8月1日またはそれ以降のできるだけ早い時期

提出書類等 詳細はWebページをご覧ください

神奈川工科大学教員公募掲載ページ <https://www.kait.jp/recruit/>

応募締切 2022年5月9日(必着)

なお, 応募書類を受付次第, 順次, 面接~決定を実施する場合があります

照会先 情報学部情報メディア学科 西口磯春

E-mail: nishiguc@ic.kanagawa-it.ac.jp

■信州大学繊維学部先進繊維・感性工学科 感性工学コース

募集人員 助教(テニユア・トラック) 1名

研究分野 大分類: 情報学 小分類: 人間情報学

職務 ①研究分野: ヒトに関する情報学, あるいは, ヒトとモノ, ヒトと社会とのかかわりについての情報学を活用し, ヒトにとって心地の良いものづくりやサービスの創造にかかわる研究
②教育担当: 1) 1年次教育: 松本キャンパスでの基礎科学科目や共通教育科目, 2) 高年次教育: 学部専門科目として情報系に関連する科目ならびに実験実習科目, 3) 大学院教育: 知能情報学ならびに実験実習科目。これらのうち, テニユア・トラック助教期間は高年次教育として「情報処理・システム基礎」「感性情報処理」の2科目を担当します。その期間後は, 他の科目も担当していただきます

③運営業務: 学部・研究科等の大学運営業務にも従事していただきます

着任時期 2022年10月1日以降のできるだけ早い日

応募期間 2022年5月31日(17時必着)

その他 応募資格, 提出書類, 送付先, 照会先を含む詳細はWebページをご覧ください

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/recruit/2022/03/163379.html>

■大阪工業大学工学部

募集人員 特任講師/特任准教授/特任教授または講師/准教授/教授 1名

所属 大阪工業大学工学部電子情報システム工学科(大阪府大阪市旭区大宮5-16-1)

専門分野 情報工学分野

応募資格 博士の学位を取得済みまたは取得見込みであること

着任時期 2023年4月1日

応募締切 2022年6月1日

その他 【任期】特任の場合は, 最長5年の有期雇用。採用後の教育研究業績評価等により, 特任教員として再任または専任教員への任用替えとなる可能性がある

【詳細】4月初旬に以下のサイトに掲載

https://www.oit.ac.jp/japanese/saiyo/top_main.html





FIT2022第21回情報科学技術フォーラム 選奨論文・一般論文 講演募集のご案内

会 期：2022年9月13日(火)～15日(木)
会 場：慶應義塾大学 矢上キャンパス(ハイブリッド開催)

FIT2022 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ (ISS) 並びにヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) と情報処理学会 (IPSJ) は、2002年から毎年秋季に合同で「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しています。2022年9月には、第21回目を慶應義塾大学 矢上キャンパスでハイブリッド開催いたします。FITは、同学会の大会の流れをくむものであると同時に、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流を実現してきております。皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮ってお申込み下さい。

●申込主要日程

登録申込/投稿受付期間：2022年3月29日(火)から 2022年5月11日(水) 15:00まで
最終掲載原稿締切：2022年6月24日(金) 15:00

●表彰

FITには、以下の表彰制度がありますので是非ともチャレンジして下さい。
いずれの賞も、電子情報通信学会又は情報処理学会の会員であることが受賞条件となりますのでこの機会に是非御入会下さい。

| | |
|----------------|---|
| | |
| FIT ヤングリサーチャー賞 | 2年12月31日現在で33歳未満の講演者(選奨論文および一般論文)の中から、発表件数の1.5%を上限として選定。賞はFIT運営委員会より3万円贈呈。本賞受賞は本人に対し一回のみ。 |
| | |

●選奨論文(4～8ページ程度)

投稿された論文の担当研究会を決定していただきます。FIT2022 Web ページに掲載の研究会取り扱い分野をよく御確認のうえ御自身の論文内容と一致した研究会を、申込者御自身の責任において投稿時に適切に選択して下さい。
船井ベストペーパー賞、FIT 論文賞への審査を希望する場合は、Web からの講演申込みの際に必ず論文形式で『選奨論文』を選択して下さい。但し、賞を前提とした論文形式となりますので、電子情報通信学会又は情報処理学会の会員であることが投稿条件となります。非会員の方は御入会手続きをお済ませの上御投稿下さい。選奨論文はFIT 初日の選奨セッションに組み込まれ、各セッションにて選奨委員2名による1次審査を行います。1次審査の結果は当日の夕方までに大会会場に掲示されます。2次審査はFIT 終了後実施され、上位3件が船井ベストペーパー賞、次点7件程度がFIT 論文賞の受賞となります。
※4ページ以上の投稿が必須ですが、3ページ目からは追加ページ代(4,000円/ページ)が発生します。例えば6ページ投稿の場合、4ページ分の追加ページ代が発生しますので、講演参加費のほかに「4,000円×4=16,000円」の追加費用が必要となります。

●一般論文(2～8ページ程度)

FIT2022 Web ページに掲載の研究会取り扱い分野をよく御確認のうえ御自身の論文内容と一致した研究会を、申込者御自身の責任において適切に選択して下さい。
※3ページ以上の投稿される場合は、3ページ目からは追加ページ代(4,000円/ページ)が発生します。例えば4ページ投稿の場合、2ページ分の追加ページ代が発生しますので、講演参加費のほかに「4,000円×2=8,000円」の追加費用が必要となります。

●講演募集内容

選奨論文と一般論文は、最近行った研究及び調査の報告、または成果を上げた新しい企画及び試験結果の報告、新製品の紹介等で、学術的に価値のあるものに限り、二重投稿にならないよう、また、著作権の問題がないようご配慮下さい。

●論文誌推薦制度

選奨論文の中から船井ベストペーパー賞の審査を通して優秀な論文と判断されたものを、FITプログラム委員会が電子情報通信学会または情報処理学会(FIT講演申込フォームの講演応募分野(研究会)で選択した研究会が属する学会)の論文誌へ推薦します。掲載の採否は、それぞれの学会の論文誌編集委員会が決定します。論文誌への投稿の際には、投稿先論文誌編集委員会の評価基準を満足し、完成度の高い論文に仕上げて頂くことをお勧めします。なお、推薦を辞退することも可能です。

●講演参加費(税込み)

講演参加費は、基本原稿掲載料2ページ分、講演料、聴講料、電子版論文集、冊子プログラム、参加章の代金を含みます。講演論文集はWeb からダウンロードして頂く電子版論文集になります。FIT 開催1週間前にメールにて案内をお送りする予定です。

会 員： 正員 12,000円 学生員 6,000円
非会員： 一般(社会人) 24,000円 学生 12,000円
追加ページ代：4,000円/1ページ (3ページ以上投稿された場合。詳細は上記参照)

※会員の費用が適用されるのは、電子情報通信学会、情報処理学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会及び電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会(IEIE、KICS、KIISE、REV、IEEE/CS、IEEE/ComSoc、IEEE/PHO、IEEE/MTT-S)または情報処理学会と協定を締結した海外の学会(ACM、IEEE、IEEE/CS、KIISE、CSI、CCF)の個人会員に限ります。
※登録申込締切後に講演の取消をされても講演参加費等はお支払い頂くこととなりますので御注意下さい。

●申込みの方法・注意事項

講演申込み及び論文原稿投稿はFIT2022 Web ページよりお願い致します。一人が複数の発表を行うことを認めます。ただし、お申込み件数分の講演参加費が必要となります。また、内容が極めて類似したものを数件にわたって発表することはできません。なお、会場数、会期日数などの制約によりプログラム編成上、講演分野の変更を行うこともございますのであらかじめ御了承下さい。

●問合せ先(FIT2022事務局)

〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5 化学会館4階

情報処理学会の会員になりませんか!

www.ipsj.or.jp

新規会員
募集中

一般社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

■活動の概要

- 出版活動（学会誌「情報処理」、論文誌、デジタルプラクティス、単行本の発行）、電子図書館への掲載
- 各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー、短期集中セミナー他）
- 教育活動（大学の標準カリキュラム策定、JABEE 認定審査、認定情報技術者（CITP）認証、教員免許更新講習）
- 国際交流（IFIP への加盟、海外学協会との提携）
- 標準化活動（情報技術に関する国際標準規格開発および普及活動）
- その他の活動（各種提言・コンピュータ博物館の運営・情報処理技術遺産の認定・表彰・支部活動他）

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員

- 名誉会員：本会の活動において特別な功績があり、総会で推薦された個人
- 正会員：本会の目的に賛同して入会した個人で、本会の中心的会員
- 学生会員：学校に在学中の個人
- ジュニア会員：小学生～大学学部3年生以下の学生（会費無料）

賛助会員

本会の活動をサポートする団体または個人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます（ジュニア会員は電子版のみ）。

特集：より自由でより没入感の高いイマーシブメディア／デジタルアーキテクチャデザイン／触覚と情報処理／最新のデジタル・フォレンジック事情／人の動きを捉え社会を動かす人口流動統計／身近になった対話システム／観光情報学—スマートツーリズムに向けた研究動向—／植物と情報処理／自動運転元年／スマートファクトリーは工場の何をを変えるのか？ 他

2 IT実践の現場で創出された創意工夫、新しい利用法、教訓などを紹介する「デジタルプラクティス」を読むことができます（電子版のみ）。

特集：オープンサイエンスを支える研究データ基盤／感性情報学最前線／快適な運用管理を支えるインターネットと運用技術／DXのプラクティス／ビッグデータのデータサイエンス 他

3 電子図書館で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

4 「連続セミナー」に会員価格（4,000 円お得）で参加できます。

時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2021年度は「ニューノーマル時代に向けた情報技術の潮流」をテーマに、12回オンラインにて開催しました。

5 ホットピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

クラウドコンピューティング、ソフトウェア開発、システム・アーキテクチャ、情報家電システム、LSI設計、高性能計算技術、プログラミング、アルゴリズム、ゲーム工学、セキュリティ、量子ソフトウェア、IoT、情報デザイン、情報倫理、バイオ、高齢社会デザイン、コンピュータグラフィックス、ビッグデータ、モバイルヘルスケア、スマートコミュニティ、音楽情報処理、ラーニングアナリティクス、障害者支援技術...

6 出版図書が会員割引で購入できます。

IT Text シリーズ、日本のコンピュータ史等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。



2021年度

ホット
ピックス

お問合せは、
一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp

[重要] 過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

2020年12月18日
プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会発行の出版物著作権は平成12年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (= 情報処理学会電子図書館) で公開されているにもかかわらず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和59年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、このたび学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意をいただくことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思っております。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止いたします。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局 (jigyo@ipsj.or.jp) まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>

IPSJ メールニュースへ広告を出しませんか？

広告をIPSJメールニュースで配信しています。本会会員が主な読者なので、ターゲットを絞った広告に最適です。

- 配 信 数：約41,000通（原則毎週月曜日配信）
- 読 者 層：本会会員および非会員
- 形 式：テキストのみ。等幅半角70字×5行。URLを入れてください。
- 掲載位置：ヘッダ（目次の上）
フッタ（本文の最下行）
- 掲 載 料：ヘッダ：1回55,000円（税10%込）※3社限定
フッタ：1回22,000円（税10%込）
※それぞれ行数超過については別途相談
- 申 込 先：[広告代理店]
アドコム・メディア（株）E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 Tel(03)3367-0571 Fax(03)3368-1519
または、情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8371
- 申込締切：毎週水曜日締切、翌週月曜日配信となります。
- 見 本：

— [広告] —

■■■■ ○○セミナー ■■■■

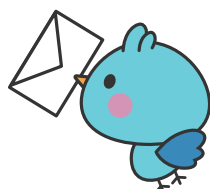
開催日時：1月10日（火）・11日（水）・12日（木）13：00～17：00

会場：○○コンベンションセンター

会費：情報処理学会会員の方には割引があります。

詳細はこちらをご覧ください：<http://www.....com/>

— [広告] —



書評（ビブリオ・トーク）・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. **募集対象** 次の2種類の記事について、原稿を募集します。書評に関しては、「ビブリオ・トーク—書評—」、「ビブリオ・トーク—私のオススメ—」の2つのカテゴリを設けます。
 - a-1) ビブリオ・トーク—書評—: 過去2年間に出版された、本会会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
 - a-2) ビブリオ・トーク—私のオススメ—: お気に入りの本の紹介。
 - b) 会議レポート: 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本会会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本会会員に限ります。

3. 応募の手続き

- 1) **表題**: ビブリオ・トークの場合は、書評もしくは私のオススメの投稿カテゴリ、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) **評者名** (会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先(住所、E-mail、Faxなど)の記載を忘れずに。
- 3) **本文**: ビブリオ・トークは1,500字以内または3,000字以内(1または2ページ)、会議レポートは2,100字前後で書く。
- 4) **その他**: (必要であれば)参考文献、付録、図、表をつける。詳しくは「原稿執筆のご案内/書評・会議レポート」(<https://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/shohyoneews.html>)を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会にて審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. **照会/応募先** 一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp



読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約200名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、以下Webページから奮って事務局までお寄せください。

「情報処理」アンケートページ <https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp



◎ IPSJ カレンダー◎

学会イベントの最新情報を下記URLでご案内しています。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、開催方法の変更、開催中止などの可能性がありますので、最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

<https://www.ipsj.or.jp/calendar.html>



CONTENTS

Preface

- 220 **The Programming Skills that Have Changed the Face of Newsgathering**
Seiji MIWA (Senior Commentator Japan Broadcasting Corp.)
- 222 **Message from the Newly Appointed Editor-in-chief : Involving Members Toward an Attractive IPSJ Magazine**
Yuki IGARASHI (Ochanomizu Univ.)
- 224 **Message from the Newly Appointed Deputy Editor-in-chief : Embark on a New Adventure: Episode 2 - Final Adventure!**
Yuka KATO (Tokyo Woman's Christian Univ.)
- 225 **Message from the Newly Appointed Deputy Editor-in-chief : Deputy Editor-in-chief as a Middle Management**
Atsushi KEYAKI (Hitotsubashi Univ.)
- 226 **Message from the Newly Appointed Deputy Editor-in-chief : Signal and Noise**
Kentaro FUKUCHI (Meiji Univ.)

Special Features

The Latest Trend in the Legal System on the Protection of Personal Information

- 228 **Foreword**
Satoshi HASHIMOTO (Tokushima-Bunri Univ.)
- 230 **Outline**

Digital Practice Corner

Practice of Information Technology Towards Super Smart Society

- 232 **Foreword**
Matsuki YOSHINO (Hitachi, Ltd.)
- 235 **Outline**

Let's Learn Informatics

- 238 **Using Programming to Foster Logical Thinking**
Tsuyoshi TOBARU (Ueta Elementary School)

"Peta-gogy" for Future

- 245 **ICT Support in a Small Town - Before the Corona Disaster -**
Keiko WATANABE (Tokyo Women's College of Physical Education / Tokyo Women's Junior College of Physical Education)
- 246 **Prepare for the University Entrance Exam for the Subject "Informatics" - Operating the Explanation Site for the Common Test for University Admissions "Basics in Information Processing" -**
Takumi MATSUSHIMA (Fukuoka Prefectural Meizen High School)
- 251 **Telework Environment that Does Not Stop Office Work - Environment Separation by Virtualization of Office PC -**
Kouji NISHIMURA (Hiroshima Univ.)

-
- 244 **Questions for Experts**
 - 256 **Biblio Talk**
 - 258 **Skimming a Famous Paper in Five Minutes**
 - 262 **IT Travelog Manga**
 - 264 **Conference Report**

Online Only

Special Features

The Latest Trend in the Legal System on the Protection of Personal Information

- e1 **Overview of the 2020 Amendments to the Personal Information Protection Act and the Impact on Information Processing Practices**
Yoichiro ITAKURA (Hikari Sogoh Law Offices)
- e7 **An Overview of the 2021 Law Reform on the Act on Protection of Personal Information**
Taro KOMUKAI (Chuo Univ.)
- e10 **Revision of the Law of Protection of Personal Information and Its Impact on Academic Research**
Harumichi YUASA (Meiji Univ.)

- e15 **Act on the Protection of Personal Information (June 2020) and AI Development**
Tadashi MIMA (Hitachi Consulting Co., Ltd. / Keio Univ.)
- e19 **Current Legal Order on Data Assets under Insolvency Procedures in Information Society**
Satoshi HASHIMOTO (Tokushima-Bunri Univ.)

-
- e26 **What Kind of Exam Questions on Informatics Will Appear in University Entrance Exams?**
 - e38 **What Kind of Exam Questions on Informatics Will Appear in University Entrance Exams?**

2021年4月から新たに本誌編集委員に就任しました。コロナ禍、リモートで初めて参加した4月の編集委員会から半年ほどは毎月の定例委員会で何が話されているのか、その議論についていくこともできず、どこに何があるのかも手探りの状態でした。そうこうしていた暑い夏の日には本誌編集委員として初めて特集エディタを担当する機会がやってきました。どのテーマを選ぶべきなのか頭の中を駆け巡っていましたが、2022年4月以降に相次いで施行を迎える個人情報保護法改正の最新動向がよいのではないかと思います。本誌では、プライバシーや個人情報に関連したテーマは何度か特集されています。個人情報保護法は、3年ごとに見直しが行われて行く中で2020年と2021年の2年連続で改正が行われ、2020年改正法の規定が施行を迎えるタイミングで個人情報保護法の最新動向をお届けすることで読者の皆様にとって有益なものになればと思います。しかし、本誌の特集エディタを担当するのは初めての経験でしたので、そもそも企画はどうやって提案するのか、執筆者は集まるのかなどあらゆることが分からないことだらけとなっ

て山積み状態になっていました。エディタが普段活動の場としている本会の研究会では社会制度と情報技術の境界領域の問題を研究していることもあり、エディタとしては、制度的な側面を扱うにせよ技術への影響の側面を扱うにせよ、双方が両輪となつてともに社会を発展させていくことができるような内容にしたいという思いがありました。幸いにも改正法の内容そのものの解説部分でも、改正法が情報技術の研究開発や情報処理の運用面に与える影響の解説の部分でも高い知見と問題意識を有する最先端の実務家、研究者、そして技術者に執筆をお願いすることができました。企画内容の全体像が見えてきた、その後の目次の確定や著者の先生方への執筆依頼、進捗状況管理などのプロセスも会誌担当事務局の皆様や先輩編集委員の先生方にことあるごとに聞きながらようやく刊行を迎えることができました。今後も情報科学が技術と制度のHUBとして社会に埋もれる多様な問題を相互につなぎ、解決に寄与できるような内容を送り出していきたいと考えています。

(橋本誠志/本小特集エディタ)

次号(6月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

※はオンライン版のみの掲載となります

「特集」2次元コードが経済の動きを加速させる[※]

QRコードの進化と普及—QRコードの軌跡と今後—/2次元コード決済とその安全性—2次元コードの潜在的脆弱性—/決済用QRコードの統一規格JPQR—コード決済の仕組みと標準化の内容—/ワクチン接種証明書アプリの取り組み/QRコード決済システムを活用し、市内公共交通のキャッシュレス化を推進!~長野県上田市における「公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト」~/デジタル地域通貨で実現するサステナブルな地域づくり

教育コーナー：べた語義

連載：5分で分かる!有名論文ナメ読み/情報の授業をしよう!/先生、質問です!/ビブリオ・トーク

コラム：巻頭コラム

訂正

本誌63巻4号(2022年4月号)の連載：先生、質問です!に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

p.195 久保田晃弘氏回答5行目

(誤)もし見つかったら、その人の所属先なり、あるいは連絡先などを(これも検索すれば見つかる場合があります)に、メールなどで連絡してみるのがよいと思います。

(正)もし見つかったら、その人の所属先なり、あるいは連絡先など(これも検索すれば見つかる場合があります)に、メールなどで連絡してみるのがよいと思います。

複写される方へ

一般社団法人情報処理学会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会(https://www.jaacc.org/)が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。

尚、本会会員(賛助会員含む)および著者が転載利用の申請をされる場合については、学術目的利用に限り、無償で転載利用いただくことが可能です。ただし、利用の際には予め申請いただくようお願い致します。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

Information Processing Society of Japan authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JACC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JACC (http://www.jaacc.org/en/) and confirm appropriate organizations.

You may reuse a content for non-commercial use for free, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

..... 広告のお申込み

■広告料金表（価格は税 10%込）

| 掲載場所 | 4色 | 1色 |
|--------------------------------|----------|----------|
| 表2 | 363,000円 | — |
| 表3 | 302,500円 | — |
| 表4 | 423,500円 | — |
| 表2対向 | 330,000円 | — |
| 表3対向 | 291,500円 | 170,500円 |
| 前付1頁 | 275,000円 | 148,500円 |
| 前付1/2頁 | — | 88,000円 |
| 前付最終 | — | 162,800円 |
| 目次前 | — | 162,800円 |
| 差込 (A4変形判 70.5kg未満 1枚) | 302,500円 | |
| 差込 (A4変形判 70.5kg～86.5kg 1枚) | 385,000円 | |
| 同封 (A4変形判 1枚) | 385,000円 | |

■「情報処理」

発行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000部
 体裁 A4変形判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1頁 天地 250mm × 左右 180mm
 1/2頁 天地 120mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 280mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

..... 掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア（株）宛にご請求ください。

■「情報処理」 63巻5号 掲載広告（五十音順）

- オーム社..... 表2 すべての会社を希望
 コロナ社..... 前付最終上
 サイエンス社..... 表2対向

■資料送付先

| | | | |
|-------------|---------------|---|---------------|
| フリガナ お名前 | _____ | | |
| 勤務先 | _____ 所属部署 | | |
| 所在地 | 〒 _____) | | |
| | TEL (_____) | - | FAX (_____) |
| ご専門の分野 | _____ | | |



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア（株）**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。
Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所



三菱電機 (株)

FUJITSU

富士通 (株)



(株) サイバーエージェント

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気 (株)



日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)



(株) リクルート



(株) NTTドコモ

TOSHIBA

(株) 東芝



日本電信電話 (株)



日本マイクロソフト (株)



(株) フォーラムエイト

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)



(一社) 情報通信技術委員会

NTT data

(株) NTT データ



グリー (株)

IA japan

(一財) インターネット協会



(一社) 情報サービス産業協会



トレンドマイクロ (株)

BFT

(株) BFT



NTT コムウェア (株)



NTT テクノクロス (株)

uejima

(株) うえじま企画

OKI

沖電気工業 (株)



コアマイクロシステムズ (株)

SANBI

三美印刷 (株)

SONY

ソニー (株)

TECHNOPRO
Design

(株) テクノプロ
テクノプロ・デザイン社

MIZUHO みずほリサーチ&テクノロジーズ

みずほリサーチ&テクノロジーズ (株)